

# 魔法のワンドプロジェクト

## 肢体不自由特別支援学校に通う 重度重複障害のある児童への iPadの活用

東京都立北特別支援学校 中村早希

# 東京都立北特別支援学校

東京都立北特別支援学校



# 対象児の情報

- 小学部6年 男子
- てんかん性脳症
- エアウェイ、鼻腔留置チューブ、サチュレーションモニターを常時装着
- 聴覚優位
- 快：笑顔 不快：眉間にしわを寄せたり歯ぎしりで表現
- 好きな活動：シーツブランコ
- 「自分の力でやりたい」という思いがあるように感じられる

# 困難の内容

- 学習の積み重ねが難しいこと
- 音に敏感で腕を引き込むこと
- 主体的な活動が見つけづらいこと

# 音に対する反応



- 彼の人生が少しでも楽しくなればいいな
- 楽しめる活動、活躍できる場面を増やしてあげたいな



来年は中学部。新しい環境で彼の実態を知っている先生がいない中、彼の特性やもっている力が埋れてしまう可能性があるのではないか

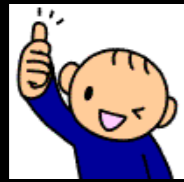


# iPadとの出会い



初めてiPadを体験した時、  
主体的な活動に汗をかきながら  
夢中に取り組む様子が見られた。

魔法のランププロジェクトに参加して・・・



## 児童の変化

- ・手を降ろしたまま操作できるようになった



## 教員の気づき

- ・手の動きにパターンがあることが分かった
  - ・iPadは音色を楽しんでいることが分かった
- などなど





# iPadの楽しみ方

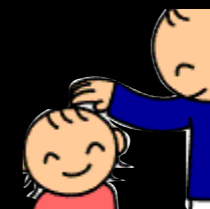


自分で操作



+

周りの反応



さらにこんなことも分かってきた。けど・・・

- ・ 語彙ではなく、イントネーションで感じている
- ・ 聞こえ方に左右差がありそうだ→本当に？
- ・ 暗室で光を追う様子が見られた→もっと引き出せる力がありそう

実態把握をさらにすすめよう

- ・ 主体的に楽しむことができた

意図的な動きが引き出せるかも

# 困難の内容

○学習の積み重ねが難しいこと

→積み重ねられていた

○音に敏感で腕を引き込むこと

→気に入ったアプリなら降ろしたまま操作できるようになった

○主体的な活動が見つけづらいこと

→気持ちを向けられる環境作りをすればiPadやスイッチ活動が○

今年度の実践

# 困難の内容

- 学習の積み重ねが難しいこと
- 音に敏感で腕を引き込むこと
- 主体的な活動が見つげづらいこと
- 表出が確実に相手に伝わる手段になりにくいこと

# 活動目的

実態把握を行いつつ、楽しさや満足感を共感し合う経験を増やしていく中で、主体的な行動を引き出していく

## 【実態把握】

聴覚の活用について

表出と動きの関連について

視覚の活用について

## 【主体的な行動】

人との関わりを広げる

伝える力を引き出す

意図的な腕の操作性を引き出す



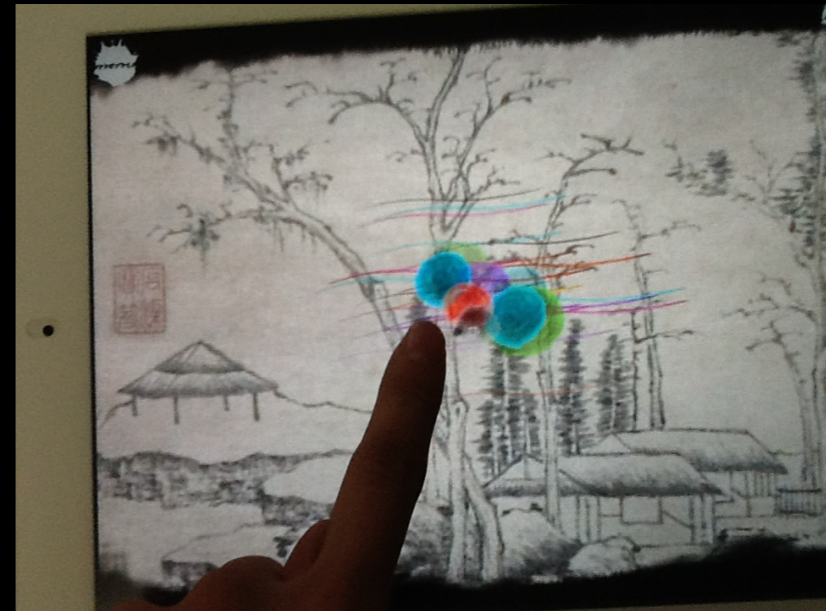
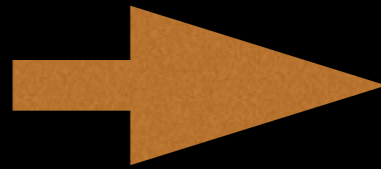


# 活動の具体内容

個別指導の時間 (9:30~9:50)

アプリ: 「Magic Zither」 「MADPAD」 「I love Fire works」

「Pocket Pond」 「瞬間日記」 「Light box」 「You Tube」 など



どのアプリも触れると画面が変化し、音色も変わります。

「Magic Zither」は琴の音、「Pocket Pond」は池の音が鳴ります。

# アプリの良かった点

- 触れるだけでフィードバックがある
- 心地良いと感じられる音が見つかった
- 手軽さ                      などなど

人を呼んでる？



# 確かめてみたら・・・

- ・人が近くにいない時、足や頭の動きが多い
- ・毎回同じ表出ができるかどうかは分からない
- ・この動きがどんな気持ちを表しているのか？

- 気持ちが人に向かっていたら？
- 人を意識して表出できてる？
- 担任以外だったらどうか？

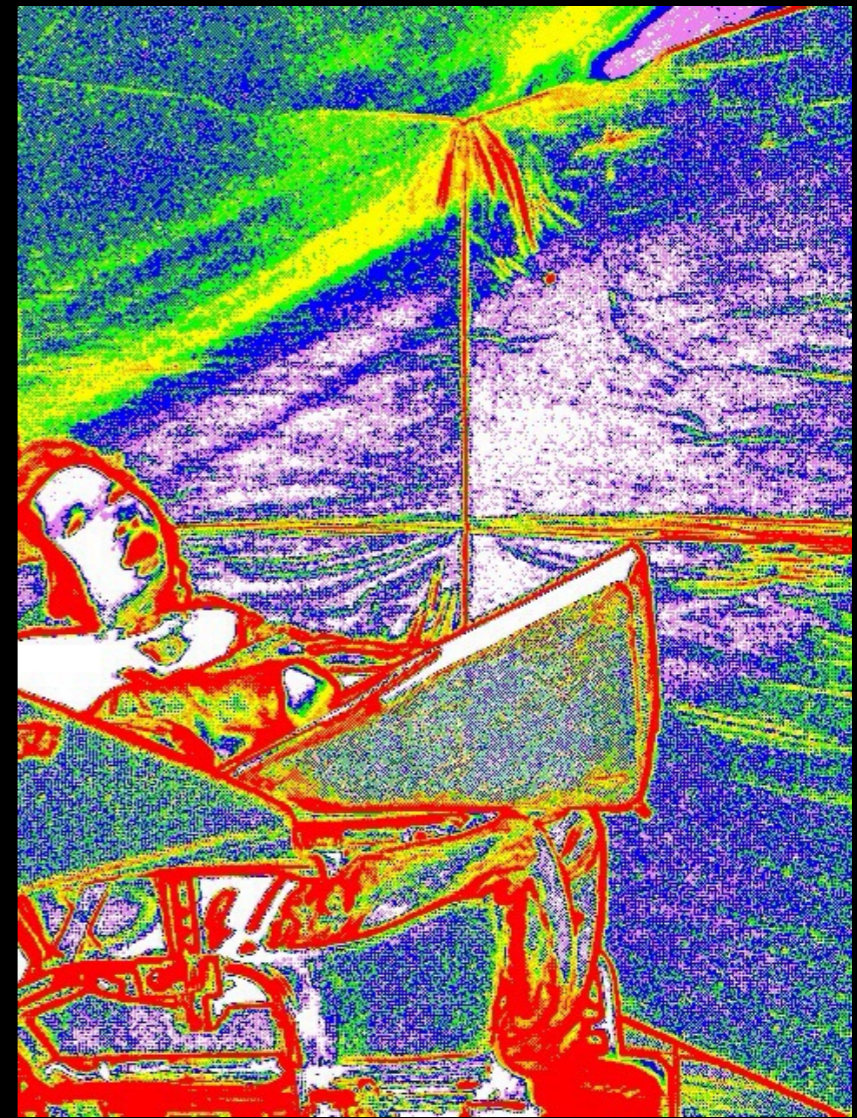


# 中間報告後の実践

# 担任が近くにいるとき



20秒後

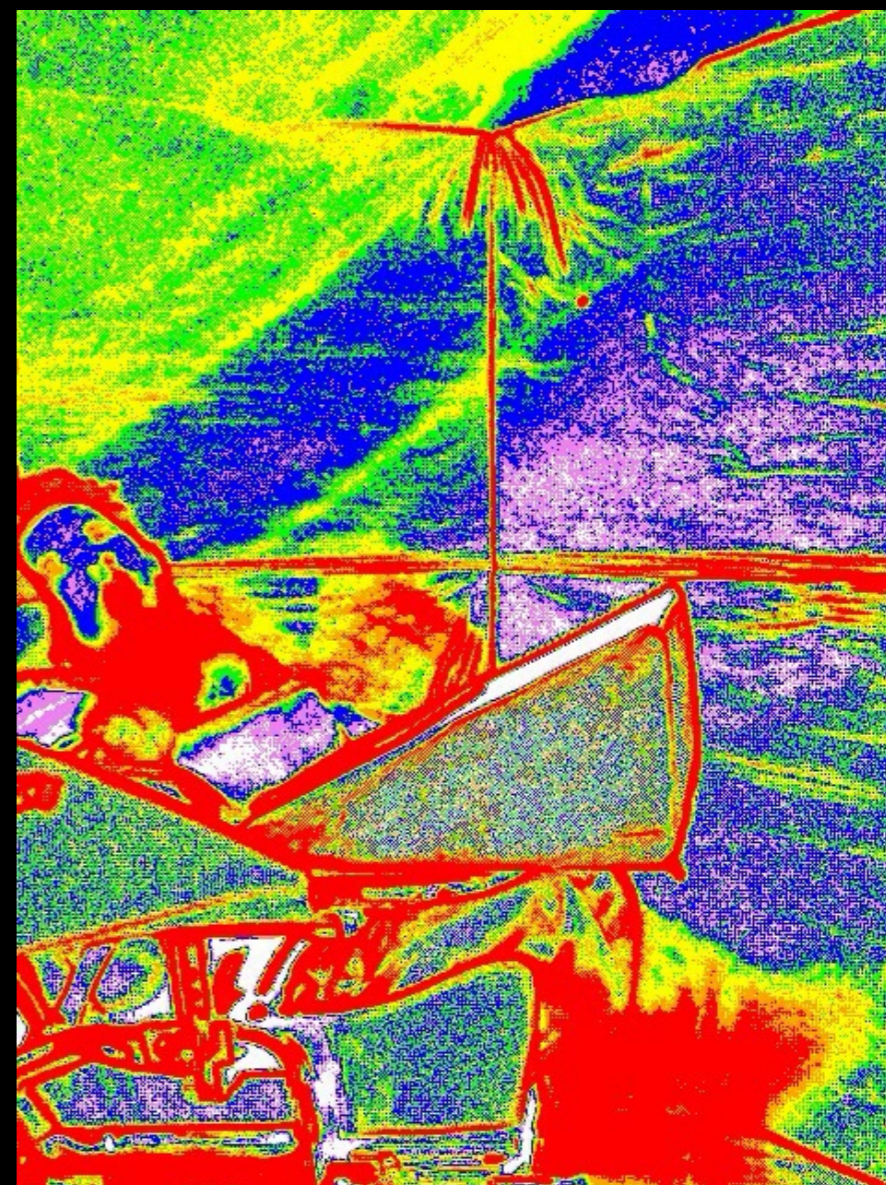


※赤い部分が動きの多いところです

# 担任が隠れているとき

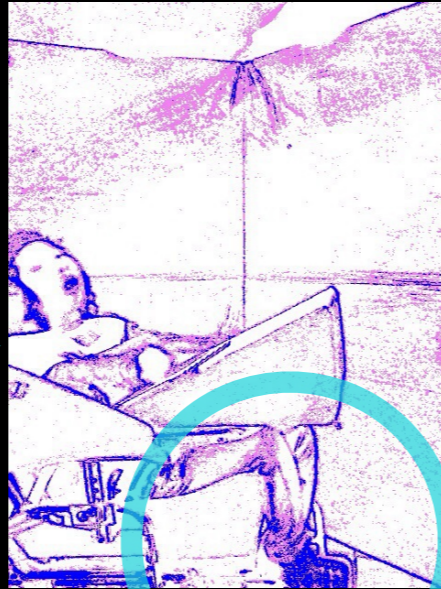
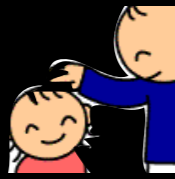


20秒後

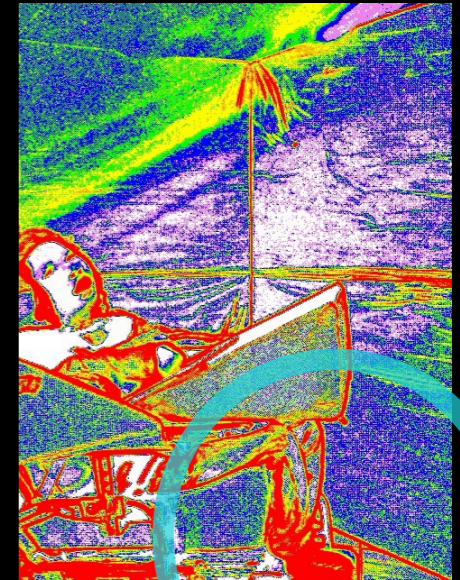


※赤い部分が動きの多いところですよ

担任が近くにいるとき



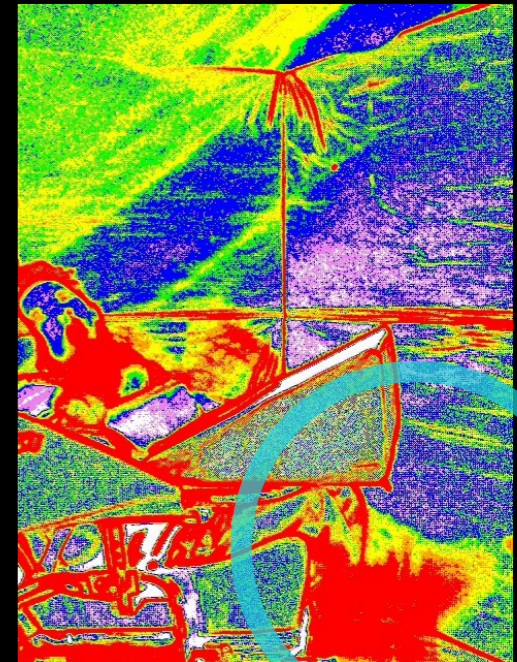
20秒後






担任が隠れているとき

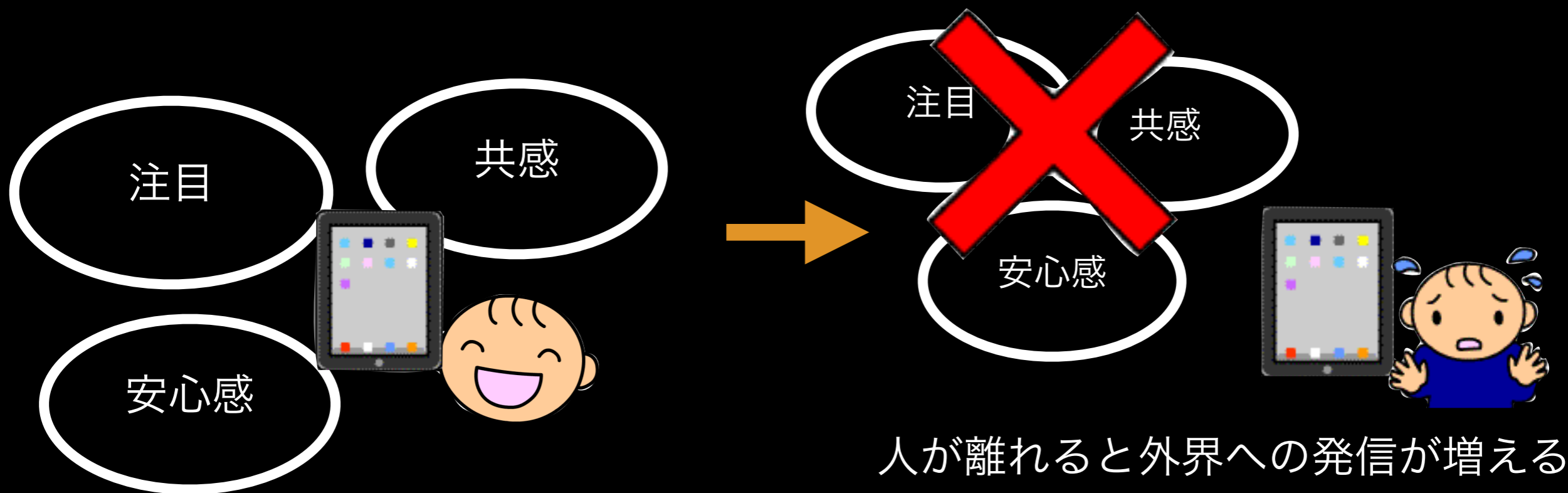


20秒後





- ・人が近くにいない時、足や頭の動きが多い 
- ・不快なときは歯ぎしりをすることがある 
- ・毎回同じ表出がでるかどうかは分からない 
- ・この動きがどんな気持ちを表しているのか？



★ 中間報告での気づきが証明された



昨年度を振り返ってみる



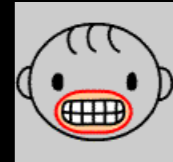
振り返ってみると・・・

人が離れると外界への発信が増える

・足の動き



・はぎしり



(不快なときの表出)



足の動きも不安や不快を表す  
表出ではないか？



# 足の動きについて観察を続けよう

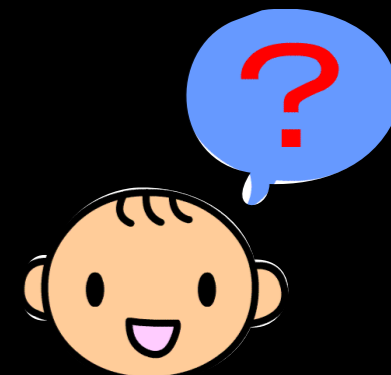


## 足の動きの原因

- ・ 苦しくて緊張が入る
  - ・ やる気がありすぎて力が入る
  - ・ 人を呼んでいる
  - ・ 不安な気持ち
  - ・ 怒っている
- などなど



この動きをさらに分化し、具体的に意志の表出としてつなげていけないか？



今年度、他にもこんな実践を  
していました



# 視覚の活用

○明るい環境でも担任を目で追うような動きが出てきた



- 画面の中の変化を追視しているというより、画面全体の光の変化に気づいている様子
- 暗室の方がより気づきやすく反応が良かった
- iPadの画面<大型テレビ

★ iPadと大型テレビを使って視覚の使い方を  
観察できる可能性があるのではないか？



# 困難の内容

- 学習の積み重ねが難しいこと
- 音に敏感で腕を引き込むこと
- 主体的な活動が見つけづらいこと
- 表出が確実に相手に伝わる手段になりにくいこと
  - 不安や不快な表出ははっきりとみられた

# 本児に必要な学習環境の整理

- 背景の整理
- 余計な音の排除
- 手を使う活動は1人でもできる教材配置の工夫
- 見る活動はiPad<大型テレビが気づきやすい
- ときには照明のON⇔OFFの利用を



# 今後の見通し

## ○成果



- ・視覚の使い方が上手になってきたことで、活動への期待感をもちやすくなり、楽しめることが増えていくと考えられる

- ・意思を感じられる場面が増えてきた



- ・実態把握が引き継ぎに役立つ



## ○課題

- ・視覚の使い方、実態把握をどうこれからの日常に活かしていくか
- ・足の動きについて、見え方についての検証を続ける